

始業式 式辞

平成 27 年 4 月 9 日（木）

2015（平成 27）年度が始まりました。

中学生 46 名

高校生 141 名の新入生を迎え、とてもすがすがしい気分の今日の日、新年度の始業式の式辞を述べます。

東京に、仏教伝道協会という名の財団法人があります。沼田恵範さんという実業家が会社経営の利益を仏教伝道のためにつぎ込んで起こされた財団で、その目的を世界平和の実現に置いておられます。釈尊の教えすなわち仏教を世界に広めることが、これにかなうものであるのと考えに基づいての行動です。

相愛中学校・高等学校では、この財団の協力により、新入生の皆さんに、この財団が発刊している「仏教聖典」をお届けすることにしています。高 3 生と中 3 生がまだ手にしていないようですので、卒業に際して、プレゼントできるよう手配しましょう。

さて、この「仏教聖典」ですが、お釈迦様の言葉を集めた本です。昨年度の入学式の式辞に引用した箇所があります。親しむべき友のことです。次のように表されています。

『親しむべき友とは、本当に助けになる人、苦楽をともにする人、忠言を惜しまない人、同情心の深い人である。ふまじめにならないよう注意を与え、陰に回って心配をし、災難にあった時には慰め、必要なときに助力を惜しまず、秘密をあばかず、常に正しい方へ導いてくれる人は親しみを仕えるべき友である。自らこのような友を得ることは容易ではないが、また自分もこのような友になるように心掛けねばならない。よい人はその正しい行い故に、世間において太陽のように輝く』です。

この釈尊の言葉を読むにつけ、相愛中学校・高等学校の PV「希望のバトン」の歌詞が思い浮かびます。共通項がいくつもあるのです。

『あの日 くじけそうになった時に 君は 一人じゃないと教えてくれた 教室の陽だまりで 笑顔とあの手の温もりをくれたね』

『もう諦めないよ くじけないよ オンリーワンの夢見つけた 夕陽照らす階段で 君のエールとハートが 勇気をくれたね』

そうです。そばにいてくれる友人の存在です。親しむべき友のことを親友と呼びます。友に求めるばかりでなく、釈尊の言葉通り、自らそのような友でありたいですね。言葉で表現するのは簡単ですが、行動を伴い、相愛の学園生活の中で互いに親友と認めあい、生涯にわたってこの関係が続くことが望ましいですね。

新年度のスタートです。それぞれの目標に向かって努力しましょう。そして本当の親友を持ちましょう。